

令和4年度

鳴門市第一小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現
- 学校と家庭が連携し、課題に対して粘り強く取り組む児童の育成

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員 校長 野村篤, 教頭 佐藤由典
 教務主任 阿部富子, 特別支援 藤本景子
 田中律子(1年), 竹野香織(2年), 池内香絵(3年)
 樋谷幸司(4年), 辻岡尚道(5年), 野田雅宏(6年)

校長

野村 篤



◎次の(1)~(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

校内研修や研究授業、教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、真面目に取り組む児童が多い。 ●語彙数が少なく、正確に文章を読み書きすることに課題がある。 ●学力の二極化が見られるところもある。	・基礎的・基本的な知識・技能が確実に身につく、それらを活用することができる。 ・語彙数を増やし、正確に文章を読み書きすることができる。	・小テストや宿題などで既習内容を繰り返し学習させ、定着をさせる。 ・新聞や図書を活用し、あらすじをまとめたり要約したりする書く活動を充実させる。 ・本を紹介したり読書の記録をつけたりするなど読書活動の充実を図る。 ・タブレット端末等を効果的に活用して「個別最適な学び」を実現する。	・引き続き既習内容の定着を図るため、繰り返し基礎的な問題に取り組む。 ・授業での図書室の利用や読み聞かせ、おすすめの本を紹介し合う活動を通し、読書に興味をもてるようにする。	・既習内容の繰り返し学習には、全学年が取り組み、基礎・基本の定着に繋がったが、全ての児童の定着には至っていない。 ・タブレット端末を活用することにより、習熟度によっての差を緩和することができた。	・学習規律の更なる定着。 ・既習内容の繰り返し学習により、基礎・基本を定着させる。 ・読書時間を確保したり、新聞を使った学習を取り入れたりする。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを積極的に発言したり、話し合い考えを深める学習が好きな児童が多い。 ●これまでの学習や友達の意見と比較・関連付けて、自分の考えを述べることに課題がある。	・これまでの学習を手がかりにしながら、自分の考えを書くことができる。 ・進んで自分の考えや根拠を述べたり、友達の発言と比較したりすることによって、自分の思いや考えを広げ深めることができる。	・一人で考える時間を確保し、ペア、グループ、全体での話し合いなど適切な方法で対話の場面を取り入れる。 ・根拠を述べたり多様な意見を引き出したりにできるように発問を工夫する。 ・電子黒板やタブレット端末を活用して、友達の考えを明確化し、比較・関連付けすることで「協働的な学び」を実現する。	・ペア、グループ、全体での話し合いの場面を増やし、答えだけでなく理由をつけて発表するなど、考えをまとめ、広げていく力をつけていく。	・自分の考えを書き、理由をつけて説明できるようになってきた。 ・友達の発言と比較したり、自分の考えを広げたり深めたりすることは十分ではなかった。 ・徐々にペア、グループ学習を増やし、対話的な学びに繋がった。	・タブレット端末を適宜活用し、「Teams」や「メタモジ」などでグループ学習を取り入れ、グループでの話し合い活動の機会を増やし、考えを深めさせる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に対して、友達と協力しながら前向きに学習に取り組める児童が増えた。 ●粘り強く取り組むことに課題がある。 ●家庭学習の習慣がなかなか身につかない児童もいる。	・自ら課題を設定し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・最後まで粘り強く課題に取り組むことができる。 ・宿題や自主学習に取り組む、家庭学習の習慣を身につけることができる。	・授業の最後の振り返りの方法(文章記述・記号による評価・話し合い)を充実させ、充実感や自己肯定感を味わえるようにする。 ・学年便りや懇談等で継続的に家庭学習の習慣化を呼びかける。	・学習のまとめを発表する活動(毎時間・単元ごと)をとって、満足感を味わえるようにする。 ・PBSを取り入れ、小さな成長や意欲的な発言を見逃すことなく、主体的に学習に向かえるよう支援する。	・単元ごとの振り返りはできたが、毎時間はできないこともあった。 ・PBSを取り入れることにより、自己肯定感が高まり、学習に意欲的に取り組んだり、自信をもって発言したりする児童が増えた。	・自分の調べたことや考えたことを主体的に表現する意欲を持てるようにするために、場の工夫や言葉がけの工夫をする。 ・振り返りの時間を確保する。 ・PBSを継続して取り入れる。

令和4年度 学力向上ロードマップ

